



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1921, 2(14)

ISSUE DATE:

1921-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159654>

RIGHT:

大正十一年
一月號

天

界

第



第十四號

内 容

(口繪) 星雲につゝ プレヤデス

(巻頭) 大正十一年の天文學界……一

アイシンの相對原理(二)……………二

助教授理學士 山本 一 清

月世界の地理 (圖入)……………八

京都大學 古川 龍 城

一時望遠鏡の製作法……………一〇

京都大學 中 村 要

初冬の曉天……………一五

岡山 水野 千 里

△ロシア天文臺の近狀▽……………一七

經度變化の發見……………一八

大正十一年の彗星界……………一八

アンタレス星の直徑……………一九

プレヤデス星團の寫眞……………一九

質 疑 (二件)……………二〇

同好會報……………二〇

特別附錄 天文語彙 (一二)

一 月 の 天 象

太陽 八日前十一時、小寒。二十一日、大寒。四時半、麁瓶宮へより寶瓶宮に入る。大寒。

月 六日午後七時半、上半月(魚座)の南。十三日午後十一時半、滿月(双子座)二十日午後三時、下半月(乙女座αの間)二十八日午前九時、新月。

水星 宵の星。月初は太陽に近いが、末になるに従ひ好く見える。三十日最大。離隔太陽の東十八度半、觀望有望。好機逸すべからず。

金星 始終、太陽のあちら側を順行中。駄目。火星 まだ随分遠い。天秤座を順行中、二十日にはα星に近づく。月末夜半出現。直徑六秒、光度一等半。

木星 乙女座α星の北西を順行中、夜半東天に出現、光度負一等半、曉空の偉觀! 十九日、月に近い。

土星 乙女座γ星と併立、十八日留、其後逆行。望遠鏡では美しい輪も見える。木星といひ、土星といひ、此頃の乙女座の賑やかさ哉。

天王星 やつぱり水瓶座αとの間、夕空で見える時間は少ない。

海王星 蟹座星の北をゆるく。望遠鏡で觀測の好時機。

會告

一月例会

大正十一年一月廿一日(日曜)午後七

時、例によつて、否、新年早々だから、大に改まつた
心持ちで、京都大學々生集會所(熊野停留所より正北
へ田中通りを五丁)に集まつて下さい、茶をのみ、ス
トープをかこみながら一夕の天文談に世間を忘れま
せう。當日の講話は

「二重星の話」

助教 山本 一清氏

右

大正十年十二月二十日

天文同好會

廣告

アレテン はいよく發刊された。去る十二
月中の分左の如し。

No. 1. A New Meteoric Shower.

(新しい流星雨發見)

Kyoto Observers in Sick-bed.

(京都の觀測者の病氣)

No. 2. Great Sun-Spots.

(大きな太陽黑點群)

Alpha Orionis bright.

(オリオン座ア星の増光)

A Correction.

(正誤)

Contents of THE HEAVENS No. 14.....edited by I. Yamamoto.

Nebula around the Pleiades (Frontispiece).....Astronomy in 1922.
.....I. Yamamoto, Einstein's Principle of Relativity (2).....R.
Furukawa, Geography of the Lunar Surface (illustrated).....K.
Nakamura, How to make a one-inch Telescope.....Ch. Misuno,
The Morning Sky of the Early Winter.....Latest News of a Russian
Observatory.....Variation of Longitude discovered.....Comets in
1922.....Diameter of Antares.....On the Photograph of the Pleia-
des.....Queries.....Letters.....Reports.....Notes.
APPENDIX: T. Ebi, Astronomical Lexicon (12).

Published by The Society of Astronomical Friends, Kyoto University Observatory.

觀測部設置

單なる星の眺めより一步進んで研究的貢獻をなさ
ため、本會は觀測掛指導の下に來る十二月から

(一) 流星部

部長 中村 要氏

(二) 變光星部

部長 山本 一清氏

の二部を置き、會員中の熱心家を募つて部員とし
す。部員は部費として一ヶ月、金五拾錢を納める義務
があります、其の代り、實際觀測上、部長の熱心な
指導を受け、又必要なる印刷物品を給せられ、尙無
代で

ブレットン(Bulletin)

不規則な發刊物

の配布を受ける特典があります。此のブレットンは天
界の發行を待てない至急報で、必要に應じ月に幾度
でも發行し、流星や變光星のみならず、彗星の發見
や、遊星恒星の實際觀測や、尙其他、學界の最近消息
を傳へるものであります。但し此のブレットンは全部
英文でありますから、部員は其の資格として中學第
三年級程度の英語を卒業したものでなければなりま
せん。(若し觀測部員でなくて、ブレットンを讀みたい
人は、やはり毎月五拾錢を拂つて下さる必要があり
ます)——希望者は往復ハガキで申込んで下さい。

大正十年九月二十五日

天文同好會

大正十一年一月發刊

Kioto University Observatory

BULLETIN

天文學上の内外至急報

天體觀測上の豫報と注意

同好會觀測部の觀測報告

京都大學
天文臺

ブレットン

不規則發刊(月數回)

價毎月五拾錢前拂

天文同好會發行

大正十一年一月發刊

星雲にまつたれまふアレデス



Nebula around the Pleiades

編輯室より

廣告欄にある通り、大阪の古賀氏によつて、大小二種の美しい星圖が発行されるのは、學界のためにも、斯學普及のためにも、甚だ喜ばしい。讀者諸氏は是非それを購求して、本誌の表にある毎月の天象欄を活用せられんことを望む。▲注意深い諸者は、既に御氣付きだらうと思ふが、本誌の天象欄は、第一號以來、書きぶりを少しづつ變へてゐる。其の主意は、常に眼新しい感じを失はないこと、今一つは、月とか遊星とかを觀察するついでを以つて、恒星の一つ／＼の名や位置を紹介しやうと考へてゐる。天象欄を能く讀んで下さる方はたまひ、手許に星圖がなくとも、獨案內的に星座と星名を知る便利がある。▲例へば、毎月の月の運行につれて、上半月は何座満月は何座で見えるとかいてあるから、始め何も星座を知らない人でも、月に指されて、漸々之れを知るやうになる。又今月二十日には火星が天秤座の或る鄰星に近づく。之れ即ち天象欄にある通り、α星なのだ、こんな調子に天象欄を利用して、毎月少しづつ星の名を覚えて貰ひたい。――纏まつた星圖を手許

に持つてゐれば、其れに超したことは無いが▲前に、本誌第十二號には、ピケリング氏の講演にも關係があると思つたから、月の寫眞を口繪に掲げたが、古川氏の親切により、本號には月面の地理が載せられたのは喜ばしい讀者は本號の第九頁の木版と、第十二號の寫眞と、實物の月とを見くらべて下されば最も有益だと思ひます。▲中村氏の一時望遠鏡製作法は面白いでせう。天文の好きな人は誰でも望遠鏡が持つて見たい――之れは十人が十人ながら左様である。ところが百圓二百圓の金を出して本式の望遠鏡を買ひ兼ねる事情にある人は、仕方がないと諦めて、泣寝入りをする必要がなくなつた。中村氏の文をよんで、其の通り實行すれば、三圓までの費用で可なりな能率の望遠鏡を持つことが出来る。――そして、それが自分の手製なのだから、買つたものより、以上に可愛い器械だ▲死んだ佐々木哲夫君なども、自分で盛んに一時望遠鏡を製造したものだ。▲今號より、表紙の色は火星にちなんで赤褐色。

事務室にて

前號にも御頼みして置いた通り、改正規則によつて會員の方々は、早く會費を送つて下さい。半年分、或は一年分。

大正十年十二月廿四日 印刷
大正十年十二月廿五日 發行

天界第十四號 (定價金貳拾五錢 郵税金五厘)

京都帝國大學天文臺内

編輯兼 發行 者 天文同好會

振替貯金大阪五六七六五番

右代表者

山本 一 清

印刷者 横田 秀 三

京都市柳馬場通二條南入

印刷所 合資 京都日出新聞社

丸善株式會社

東京・京都・大阪・福岡・仙臺

賣捌所

岩波書店

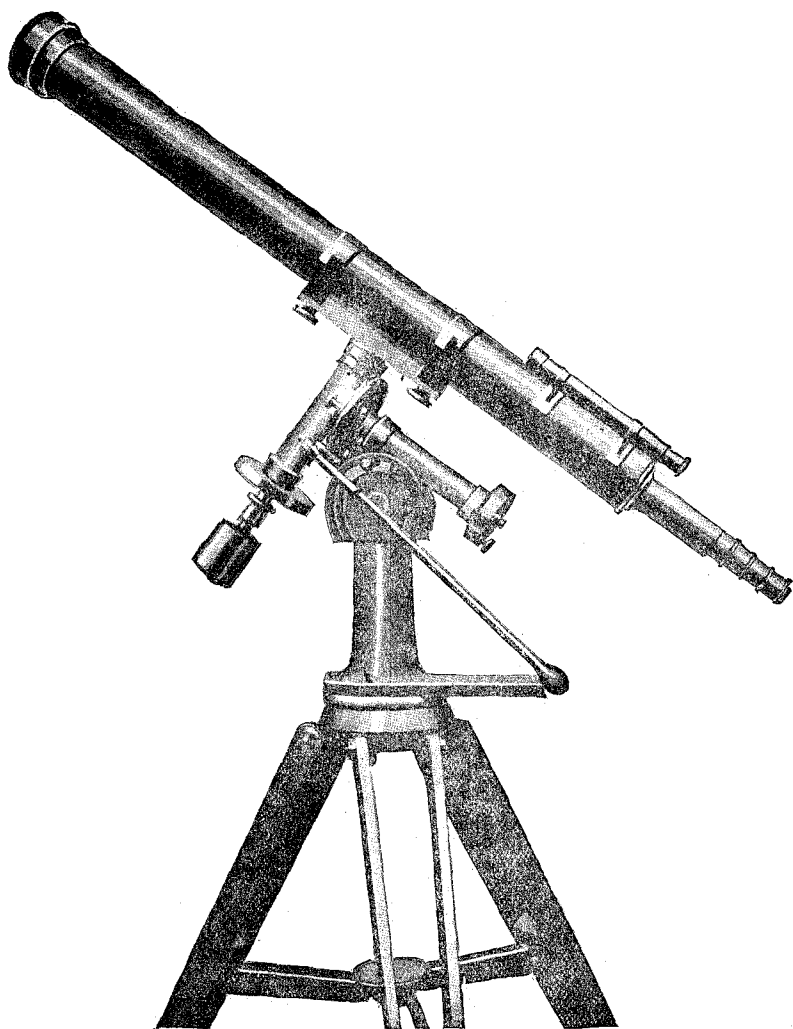
東京市神田區南神町一六

W. OTTWAY & CO. LTD.

ORION WORKS,

EALING, LONDON, W. 5.

望遠鏡の價は今や戰前に比し十割の暴騰をなせり、
之れ一般同好者の堪ふる所に非ず、本社は此の欠陥を



補はんがために特別廉價と大勉強を以つて、廣く江湖
の需要に應じつゝあり。(目錄無代進呈)

敦 倫 國 英

社 會 | エ ト ツ オ

Manufacturers